

## CVVの概要

### 組織に縛られない発想を大切に

シビルベテランズ&ボランティアズ(CVV)は、土木学会関西支部の研究グループ「フォーラムシビルコスモス(FCC)」を卒業した有志が集まって立ち上げたボランティアグループだ。1996年4月に活動の構想をまとめた。98年に決起集会を開催。2001年から社会見学の主催や説明員の派遣など、社会貢献を目的とした活動を始めた。

「FCCで中心となって活動していた京都大学教授の河田恵昭氏の『組織を離脱したベテラン技術者が何をすべきか考えたい』という意思を反映した」と、グループの立ち上げにかかわったNPO法人日本PFI協会関西事務所長の池亀建治氏は振り返る。多忙を極める河田氏に代わっ



#### 池亀 建治氏

CVVの立ち上げに尽力したメンバーの一人。NPO日本PFI協会の関西事務所長を務める。「CVVとして次の世代にノウハウをどう伝えていくか考えないといけない時期にきている」と語る

#### 谷平 勉氏

近畿大学理工学部教授で、CVVの幹事長を務める。2003年に神戸大学工学部教授の川谷充郎氏から引き継いだ。CVVのホームページは<http://structure.civileng.kindai.ac.jp/cvv/>



て大阪大学名誉教授の松井保氏がグループの代表を務めている。

土木学会からは独立した形で活動を続けており、拠点となる事務所は置いている。会費も設けていない。「NPO法人になれば報酬の受け皿としてのメリットはある。ただ、発想が絞られてしまう恐れがある。元々、組織に縛られずに自由

にやっていきたいという考えが根本にあるので、NPOにするという結論には至っていない」と、CVVの幹事長を務める近畿大学教授の谷平勉氏は説明する。

個々のメンバーがイベントなどを企画し、打ち合わせやパンフレット作成にかかる費用などは基本的に自ら工面する仕組みだ。自治体などから助成金を得ることもある。報酬が得られた場合は、経費を除いてストックしている。

グループ内での連絡の手段にメールリストを活用して運営コストを抑えている。メールリストには約90人が登録。うち約30人が積極的に活動しているメンバーだ。「高齢でやめていくメンバーもいる。グループとしての新陳代謝をうまく図っていかないといけない」と谷平氏は話している。

### (前ページから)

間性まで踏み込んだ幅広い技術を身に付けられたと思う」と金山さん。こうした経験を生かして助言や相談に当たりたいという気持ちが強い。

CVVの活動はメンバーがそれぞれ企画して賛同が得られれば実行に移すことができる仕組みだ。「見学会で人が集まらなくても責められることはない。組織に所属していたころの責任から解き放たれて自由に活動できる。何をやるかはメンバーになってから考えればいい」と、多くの技術者の参加を呼びかける。



2003年11月に兵庫県尼崎中央公民館で実施した「お箸で橋づくり・コンテスト」の参加者。(財)兵庫県青少年本部の体験事業として10万円の助成金を得た。後列右から3番目が金山さん。アドバイスグループのリーダーは井上隆司さん(同左から3番目) (写真: CVV)